

式辞

昨夜の糠雨が春を呼ぶ恵みの雨となり、構内のハクモクレンの鱗芽も大きく膨らみました。

本日ここに、同窓会会長様、PTA 会長様、悠友会会長様をはじめ、ご来賓の方々、保護者の皆様のご臨席を賜り、平成28年度・第12回卒業式が挙行できますことは、卒業生はもとより、本校職員・在校生一同大きな喜びとするところであります。

ただ今、学悠館高等学校の全教育課程を修了した定時制106名、通信制55名の皆さんに卒業証書を授与いたしました。入学以来、たゆみない努力を重ね、こうして卒業を迎えられた皆さんに、教職員を代表し、心よりお祝い申し上げます。

わが子の成長を願い、慈しみ育ててこられた保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうございます。そして、本日まで、本校の教育にご理解をいただき、様々な場面でご協力、ご支援下さいましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業生の皆さん。壇上から見る皆さんの表情からは、満足感や達成感、そしてこれから羽ばたいていく新たな世界への期待感が見て取れます。ある人は1年間、ある人は4年間と本校で学んだ期間はそれぞれ異なります。本校に入学した経緯、目的も違い、生活体験発表会などで語ってくれたように、一人一人自分の物語を持って入学してきたことと思います。そういう多くの生徒たちの中で、学習したいという気持ちを強く持ち、自分で決めた授業を自分のペースで学ぶ、誰からも強制されずに自らの足で教室に向かう、本を開くという自律的な学びができた人だけが、卒業証書を手にすることができました。

出藍祭などの学校行事や部活動。まずは参加することから始めた活動も次第により良いものにしたい、良い成績を収めたいという気持ちに変わり、真剣な思いとなって行動が生まれ、それは自分自身に大きな成長をもたらしたことと思います。

そして皆さんの残した足跡は、伝統となって後輩たちに引き継がれていくことでしょう。

これから皆さんは、未来に向かって歩み始めますが、この晴れの日にあたって、一步一步、自分の足で進んでいくのだという決意を固めてほしいと思います。

さて、先行き不透明な時代、我が国はかつてどの国も経験したことのない状況に直面すると言われております。30年後人口は1億人を割り、10人中4人が65歳以上の高齢者となる、そしてその頃には人工知能が人の能力を超えるという予測もあります。驚くべき速さで進展する科学技術、情報技術の革新、少子高齢化などが、社会構造や雇用環境を大きく変えると考えられ、このような変革は、新たな価値や、課題解決のための知恵を生み出す契機となる一方で、対立や紛争、貧困等の問題を生じる背景ともなり得ます。

しかし、どのような時代を迎えるにあたって、本校の生徒指標、希望、自立、共生は、皆さんの道標となるはずです。

「希望」。夢を抱き、未来を語る心。まずは、日常の出来事や体験をただやり過ごすのではなく、発見する、感動する、楽しみを見出す。その価値を自分の中に取り込んで行動してみる。そのようなプロセスの繰り返しによって、沸き上がる想いが生まれ、それはやがて強固な志となって自分を支える礎となります。

次に「自立」。自分に責任を持ち、能力を磨く人。まず必要なのは自分を自分の意志でコントロールすることでしょう。そして、今やるべきことに全力を尽くすこと。年度初めに、私はそれを「目の前のことを、心を込めてやる」と表現しました。校歌にある「今を生きる」とは、今の現実を受け止め、目の前のことに精一杯取り組んで生きる姿を意味しています。

そして「共生」。他者を尊重し、社会に貢献する人。18歳となり選挙権も得て社会に出ていく皆さん。皆さんも含めて私たちには、「持続可能な社会をどう構築するのか」という大きな課題が与えられています。かつての日本人は、再生可能な資源の使い方をし、循環型社会を実現していました。昔の生活に後戻りすることはできませんが、私たちは、現在ある富や地球の恵みを使い尽くすことなく、社会を健全な状態で次の世代に橋渡ししていかななくてはなりません。そして、そのための知恵と行動が求められています。

「この社会で、この地球上でどのように生きるのか。幸福な生き方とは何か」という命題について、これから皆さんも問い続けていていただきたいと思います。必要なのは問いです。問いのあるところのみ、答えはもたらされるからです。そして、その答えは、新たな志となって自分を勇気づけてくれることでしょう。

本日、本校を巣立って行く皆さん。皆さんの行く先々では、順風満帆とはいかないことも待ちかまえているかもしれません。しかし、皆さんが本校で学び取ったもの、本校で過ごした日々は、必ず、人生の折々で成長の糧となるものと信じます。

詩人の星野富弘さんに「辛いという字がある。もう少しで幸せになれそうな字である」という言葉があります。逆境にあってもじっと耐え忍ぶことは辛いかもしれませんが、しかし、自分の力を信じて、しなやかに力強く乗り越えていってください。

すべての卒業生の人生が、豊かで幸せに溢れたものとなることを祈って、式辞といたします。

平成29年3月2日

栃木県立学悠館高等学校長 大森 亮一